

## (2) 中間処理実績等(平成 18 年 10 月～令和2年 12 月末)

平成 18 年 10 月から令和 2 年 12 月末までの PCB 廃棄物処理実績は、(表-2)のとおりトランス類が 2,708 台、コンデンサ類が 79,319 台、廃 PCB 等が 2,185 本となっており、近畿 2 府 4 県で登録されている PCB 廃棄物のうち、トランス類 99.2%、コンデンサ類 96.5%、廃 PCB 等では 89.5%が処理されました。

トランス類については、平成 21 年度をピークに台数は減少傾向、重量は平成 20～28 年度は 300t～400t で推移しました。平均重量では平成 20 年度は 1.0t ですが、平成 28 年度は電鉄会社の 20t クラス 5 台の超大型物の処理が進み平均重量で 4.2t となりました。平成 29 年度は、残存物に 20t を超えるものが少なくなったことにより平均重量は 1.9t となり、平成 30 年度は処理手間物の処理が進んだほか、大型物の処理割合が増えて平均重量は 3.7t となりましたが、令和 2 年度では 0.3t となっています。

コンデンサ類については、平成 24・25 年度をピークに台数、重量とも減少傾向にあります。平均重量では平成 24 年度は 54.4kg ですが、掘り起こし活動により登録されるコンデンサ類は 10kg 以下の小型電気機器の割合が多く、平成 30 年度以降の平均重量は 30kg 程度となっています。

廃 PCB 等については、平成 24・25 年度をピークに本数、重量とも平成 28 年度まで減少しましたが、平成 29 年度から少量保管者の分析検体等の処理が増え、平成 30 年度は超大型トランスから抜油した油の処理、令和元年度からは後述(P25)します多量保管事業者の処理を開始したことから本数、重量が変動しています。

全体として、残台数は減ってきており、契約が難航している保管事業者が存在しているほか、処理手間物・困難物等(大型物等搬出困難物：H24 年度着手：14/14 台完了、コンクリート固化品等：H26 年度着手：86/87 台完了、組成不明油：H24 年度着手：16/24 本完了、PP コンデンサ：3,727 個(平成 27 年度以降は少量保管者のみ))により、搬入までの期間や処理に時間を要している状況です。またコンデンサ類、廃 PCB 等はまだまだ多くの新規登録が続いていますが、処理期限に向けて引き続き安全確実に処理を行い、早期処理を推進してまいります。

表-2 年度別の中間処理完了実績等

種別	年度		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2 12月末	計
	受託処理 (中間処理 D県)	トランス類	処理数(台)	56	290	289	404	376	297	199	279	125	87	84	74	87	38	23
処理重量(t)			70.4	205.0	295.9	429.9	372.6	402.6	335.7	381.7	352.4	300.3	348.9	142.1	317.9	91.8	7.4	4,054.6
コンデンサ類		処理数(台)	1,513	4,862	5,136	5,692	6,557	6,152	7,873	8,636	7,091	5,507	4,931	4,682	3,513	3,981	3,193	79,319
		処理重量(t)	77.0	280.4	291.5	309.8	330.9	364.9	428.5	400.8	297.5	205.7	165.0	146.2	106.7	120.0	70.8	3,595.7
廃PCB等		処理ノミ等(本)	20	53	87	85	83	197	256	264	86	64	89	129	211	247	314	2,185
		処理重量(t)	6.0	11.0	21.2	16.6	17.5	43.9	39.5	62.4	2.1	1.6	7.3	9.1	24.0	16.4	37.8	316.4
処理重量計(t)		153.4	496.4	608.6	756.3	721.0	811.4	803.7	844.9	652.0	507.6	521.2	297.4	448.6	228.2	116.0	7,966.7	
PCB処理量(t)		19.7	165.7	181.9	236.5	206.0	272.8	295.8	278.0	195.9	168.9	149.8	133.7	100.3	75.7	54.3	2,535.0	